小国町（オグニマチ）

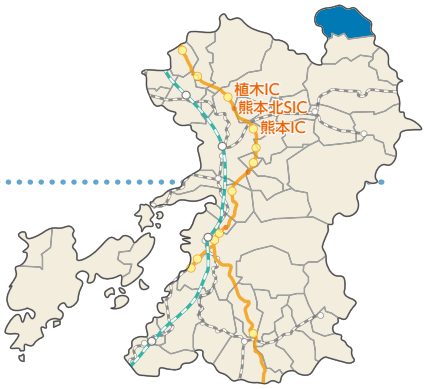
渡邉 誠次 町長

小国町は2018年に国からSDGs未来都市に選定され、地熱と森林を活かした将来にわたって持続可能なまちづくりを進めています。また、2024年発行の新千円札肖像画に採用が決定している「北里柴三郎博士」の出身地でもあり、博士の教えは今も町民に引き継がれています。

「ALL FOR THE NEXT　～すべては次世代のため～」を町のテーマとし、小国町を未来を担う子どもたちへ引き継いでいくため事業を進めていきます。企業の皆様には、当町の取組にぜひご賛同いただければ幸いです。

寄付御礼

- 贈呈式開催（首長出席、寄付額100万円以上）
- 感謝状贈呈
- 地公体広報誌掲載
- ＨＰ掲載
- 視察受入
- 功労者表彰推薦
- 紺綬褒章推薦
- その他（記念品の贈呈（寄付額100万円以上））



人口

総人口……6,543人
男……3,137人
女……3,406人
世帯数……3,310世帯

面積

総面積……136.94km²
農用地……15.48km²（11.3%）
森　林……106.48km²（77.8%）
宅　地……1.79km²（1.3%）

産業構造

第1次産業……1,552（7.4%）
第2次産業……2,262（10.7%）
第3次産業……17,240（81.9%）
生産総額：百万円

人口構成比

15歳未満……10.7%
15～64歳……48.0%
65歳以上……42.3%

教育機関

小学校……1校
中学校……1校
高等学校・高専……1校
大学・専門学校他……1校

高等教育機関

熊本県立小国高等学校（普通科）
熊本県立小国支援学校

交通アクセス

■小国町役場まで
九州自動車道 熊本ICから…約1時間30分
大分自動車道 日田ICから……約1時間
九重ICから……約40分
JR 熊本駅から……約67km
阿蘇くまもと空港から……約53km

※データは令和3年6月発行、熊本県市町村要覧をもとに作成しております。

小国町まち・ひと・しごと創生推進計画

すべては、次世代のために

〈SDGs〉関連するゴール

基本目標1　地域の資源を活かした、循環型の社会と産業づくり

地熱とバイオマスを活かした農林業タウンをテーマとし、農林業の振興及びSDGs未来都市として脱炭素化に向けた地熱と森林資源の活用を推進する。

基本目標2　仕事の創生・働く場つくり・働く環境づくり

担い手支援と働き方支援をテーマとし、地域資源の活用による新たな産業の創出による雇用の促進、人材育成、商工業の振興及び農林業の担い手支援を進める。

基本目標3　観光・交流による地域経済の浮揚

滞在型・体験型の観光地づくり・小国暮らしの支援をテーマとし、新たな観光資源の発掘と内容充実、交流人口・関係人口の増加、移住定住政策などの事業を進める。

基本目標4　安心して子育て・生活が出来る環境づくり

安心の子育て支援・老後の不安解消・婚活支援をテーマとし、子どもを産み育てやすい環境づくり、質の高い心豊かな人材育成、公共交通の充実などを進める。

重点プロジェクト

北里柴三郎プロジェクト

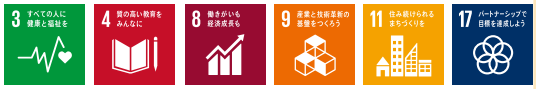
分類 人材育成・確保

総事業費 480,010千円　寄附目標額 ―

計画期間 地域再生計画の認定の日…2021年4月1日～2024年3月31日

数値目標 ●北里柴三郎記念館の入館者数…… 30,000人/年
●観光入込客数の増加…… 120万人/年

〈SDGs〉関連するゴール



学習と交流による人材育成を

2024年に発行される新千円札の肖像画に採用が決定し、破傷風菌の純粋培養の成功、ペスト菌の発見や血清療法の確立など様々な功績を残している北里柴三郎博士は小国町の出身です。この医療法や発見は現代の医学でも活用され、新型コロナウイルスのワクチン接種などはこの医療法を応用したものです。博士は「学ぶこと」と「人とのつながり」を大切にされ、この学習と交流の精神はSDGsのゴール4「質の高い教育をみんなに」とゴール17「パートナーシップで目標を達成しよう」に通じる理念であり、この精神は研修施設「木魂館」の建設につながりました。現在この木魂館は様々な事業を通して、町内外の多くの方々の交流の場、新たな人とのつながりを生み続けている施設です。

この偉業や教えを後世に伝え、そして世界に広げるための情報発信は小国町として重点的に取り組んでいる施策の一つです。博士が私財を投じて地元の子どもたちのために建設した北里文庫や博士の生家がある小国町北里地区には北里柴三郎記念館が開館されており、令和4年度には記念館周辺のコンテンツ充実を図るため、シアタールームの建設などの周辺整備による記念館への来館者数の増加を目指しています。

加えて、新千円札発行の2024年に向けて博士の顕彰事業や、人材育成のため博士の功績を学ぶ教育旅行や視察の受入れや広報活動も行っていきます。

世界的細菌学者・北里柴三郎博士の銅像

課題 1 省エネに配慮した坂本善三美術館へ

画伯の作品が展示されている坂本善三美術館

当館は、小国町出身の画家坂本善三氏の作品を収集・展示する美術館です。毎年町内全ての小学生が授業で来館するほか、町民参加型展覧会の開催など、美術館が町の生活の一部になっており、人々が自由な表現に出会い、心豊かに生きていくことを願っています。

人々と作品が印象的に出会うためには展示環境が大切ですが、省エネへの配慮も必要です。そこで、現在の照明をLED化し、CO2を削減しながら、絵画だけではない多彩な表現形式に対応できる照明方法を取り入れ、人々とアートの新しい出会いの場を作るため、企業様の力をお貸しください。

課題 2 林間広場をこれからも使用できる施設に

林間広場は県内でも珍しい人工芝のホッケーコートを備えた施設です。小国町はホッケーによるまちづくりを進め、2020年東京オリンピックでは小国町出身の選手が大会に出場しました。選手が学生の頃練習したこの広場は、照明器具も備え付けてありますが水銀灯のため、機器が故障した場合、ホッケーをする環境が整わなくなってしまう可能性があります。そのためホッケー競技をはじめスポーツをする子どもたちのために照明のLED化を行い、新たなオリンピアンを小国町から排出できるような環境を整えたい。ぜひご支援をお願いします。

夜間にホッケーの練習をする子どもたち

課題 3 子どもたちの健康を守り続けたい

次世代を担う子どもたち

小国町の次世代を担う子どもたちが健康に暮らせるように医療費の助成などを行っています。子どもの病気などが重篤な状態にならないように、予防接種法に基づいて、定期予防接種として接種された場合は無料で接種が可能であり、接種率は一定の上昇がみられていますが、子どもがかかりやすいおたふくかぜの予防接種については任意接種であるため保護者の自己負担となり、接種率は高くありません。子どもの未来を守るため、おたふくかぜの予防接種などを無料化し、子どもたちの健康を守り続けたい。

課題 4 道路の安全性を高めるため雑木を伐採したい

小国町は山間部の農村であり、道路沿いには多くの樹木が生い茂る地域です。また、鍋ケ滝や温泉地なども点在しており、自家用車で観光に訪れる人がほとんどという中ですが、町道脇には手入れができていない雑木などがあり、通行をする際の阻害になり、景観上望ましくありませんが、災害復旧工事等が優先であるため雑木の伐採は後回しになってしまう現状があります。そのため道路の安全性を高め、事故を未然に防ぐために町道沿いの雑木を伐採したい。ご支援をお願いします。

課題 5 住民参加型SDGsの見える化がしたい

合言葉は「小国はみんなでSDGs」

小国町は2018年にSDGs未来都市に選定され、町として取り組む目標に向けて持続可能なまちづくりを進めています。町として特に目指したいのは「住民参加型SDGs」であり、日常生活において、実は何気なくやっていることがSDGsにつながっていることを見える化するツールを作成したいと考えています。また、次世代を担うこともたちがSDGsへの理解を深めるため、事業者や他地域との交流を拡充し、幅広い目線でSDGsに取り組む機会を創出したい。企業様のアイデアやご支援をぜひお願いします。

課題 6 スマート農業で生産性も農地も守りたい

森林が78%を占める小国町では、約600haの『田』を活かし、水稲、そしてホウレンソウやキュウリなど生産しています。しかし、近年では農家の高齢化や後継者不足などにより、耕作放棄地も年々増加し、基幹産業である農業の衰退が懸念されています。この課題を解決するためにも、スマート農業を実証実装することで、効率化と生産性を上げることで、農地を守り、農地が囲む地域集落を守ることで、SDGsゴール2、8、15、17の達成を目指します。

小国町の田園風景

課題 7 エネルギーだだ漏れを防ぐ木の香り

小国小学校教室の窓

小国町の小中学校には一昨年より冷房設備が導入されました。しかし昭和50年代に建てられた校舎は断熱性が限りなく低く、冷房も暖房も必要以上に稼働させる必要があり、現状は「エネルギーだだ漏れ」の状態です。そこで林業のまち小国町では、木造断熱窓、または木造断熱壁のキットを開発し、小国町の小学校と中学校にテストケースとして設置し、その効果を確かめ、商品化につなげたいと考えています。省エネ化、林業振興、教育環境の向上という3つの事業効果が期待できるこの事業で、持続可能な町を目指すため、企業の皆様のご支援をお願いします。

わいた温泉郷

鍋ヶ滝

杖立温泉鯉のぼり祭り